

神内医ニュース

神奈川県内科医学会

〒231-0037

横浜市中区富士見町3-1

電話 (045)241-7000

一般用 URL <http://www.kanagawamed.org>

会員用 URL <http://www.kanagawamed.org/member>

第 61 号

2009年9月20日 発行



Index

巻頭言 | 副会長・委員長挨拶 | 人とトピック | 学会の動き | 事業委員会報告 | この一冊 | 会議報告 | お知らせ | 一言コメント | 編集後記



巻 頭 言

ご 挨 拶

神奈川県内科医学会
会 長 中 佳 一

本年5月の総会で会長に就任しました。私で五代目となります。本会は昭和42年2月創設され神奈川県医学会の最大の分科会であります。今日迄の開かれた活力あふれる内科医学会をさらに発展、成長させる所存です。今期の運動方針として一つは医療の質の向上につとめ、国民の信頼と信用と安心の獲得を目指した医学・医療の研修・学習・研鑽と地域に根ざした臨床研究・調査活動の推進をかけた。この方針の下、他分科会、各種医療関係職種、団体との連携、共同活動も追求、推進していきたいと考えます。また地域での社会・公益活動としての市民・行政との組織的協働活動にも取り組みたいと考えております。もう一つの軸として私達が属する職種、分野に関係する全ゆる問題に対し自らの考えをまとめ、発言・行動する自己統治力を発揮する活動の取り組みがあります。例えば医療制度、診療報酬制度さらには研修・学位制度等について当事者として又先輩として地域の第一線で医療を実践している立場から考えをまとめ、発表・発言・行動することです。この二大活動を通して地域に於ける信頼をさらに高め、会員増強を図っていきたいと考えています。組織体制として今期六名の副会長制としました。県下5地区からそれぞれ副会長を選出し、5委員会(総務、本体事業一学I、事業委員会一学II、制度・保険、広報・情報)と大学連携をそれぞれ担っていただくと共に各地区の分担をしていただくことで、県と各地区、各单位内科医会とのより開かれた目に見える緊密な双方向性の事業・活動推進を企図しました。又各地区から推薦の常任幹事を各委員会の責任者として配置すると共に5委員会に各地区から委員を出していただき全体体制を作ることが出来ました。恕と志を持ち日夜地域の第一線で我国の医学・医術・医道の発展に尽力されている会員各位の思いをていし、内科医学会をさらに責任ある地位へ高めるべく丁寧に取り組む所存です。会員の皆さんの提言、参加、行動・支援をお願いし挨拶とします。

副会長・委員長 挨拶

副会長



宮川内科小児科医院
宮川 政昭

今期も再び副会長を勤め
させていただくことになり

ました。どうぞ宜しくお願いいたします。

すでに、県内科医学会では6事業委員会が活動しており、学術委員会2の委員長である松葉先生により、更なる成果を積み重ねるべく様々な施策を立案されています。これらの活動の充実とその情報発信としての学会等への発表など、如何に円滑に運営し会員相互の研鑽に寄与できるようにするかというのも、担当副会長としての責務と考え、努力していく所存です。医学会としての活動の根本のひとつである会員の学問交流、さらに研究への展開が重要と考えております。実地医家の我々自身が臨床全般の向上のみならず、自らが創造したエビデンスを発信できるようにしたいものです。

また、地域や個人のレベルでは、素晴らしい取り組みをしている人達がいずれの組織にも少なからず存在するものです。しかしながら、それが全体になると、組織はどちらかというと教条的で、硬直化してしまうのが常であります。それに落胆し非協力的になり、組織を離れていく人も存在することも往々にしてあります。具体案は様々ありますが基本的には、このような現実を打破するには、悲観的にならずに様々な取り組みを積み重ねることが大切で、その結果何らかの変化が起こりうるのではないのでしょうか。

医療全般に目を向けると、私たちの医療環境も徐々に劣悪なものになりつつあります。「偏向した報道」のために、悪い印象が植え付けら

れることもあります。医師会単独の政治力には、限界があることも事実です。私たち自らが住民を味方につけて共に戦うことも必要でありましょう。そのためには、いかに医師が地域に貢献しているのか（学校保健、予防接種、住民検診、健康教育、介護保険、産業医など、医師活動の実際）を知らせること、また国の医療政策の不十分さ不合理さを、データに基づきわかりやく説明して、地域医療の正当性を理解してもらうことも大切でしょう。我々医療関係者の生活を守るだけでなく、日本の医療を少しでも良くすることが自らにかせられた責務と考え、更なる努力をしていくことも重要でありましょう。

県内科医学会の益々の発展のために微力ではありますが、尽くしていくことができると考えております。



三川 武彦

平成21年5月16日神奈川
県内科医学会総会にて三た
び副会長に就任させていた

だきました三川武彦でございます。今回は中山脩郎前会長の御勇退をうけ中佳一前副会長が新会長に就任されました。中会長は、中山前会長の活動方針を踏まえ新しい活動方針を以下提示されました。

- 1) 臨床医学医療の学習・実践・広報活動と臨床研究の推進
- 2) 地域での社会・公益を軸とする患者・市民・行政との協働活動の推進
- 3) 県と地域・単位内科医会との双益、双方向性の連携分担活動
- 4) 医療制度、医療経済制度改善への学習・提言活動の推進
- 5) IT時代を開拓する情報発信、広報活動機能の推進

であります。今期の執行部は、新会長に加え、

副会長が6名となりとくに県と地域との連携を重視した体制となっております。私の担当職務は、学術1で伊藤正吾先生を委員長に新年学術大会、県内科医学会総会時講演会、秋季学術講演会、臨床医学研修講座、集談会が主な仕事です。県としての企画・内容・構成の検討、更に秋季学術講演会の地区開催の検討等多岐にわたる問題が山積となっております。

平成21年下半期は、新型インフルエンザの大流行の兆しがあり、ワクチンの配布、PCRをどれだけ実施するか等大きな問題を抱えており、さらに政権交代の際診療報酬の改定が如何になるか、特定健診、特定保健指導の実施が変更されるのか等おおいに関心の的となっております。医師会も先制攻撃ではないですが新政権に対して物申すようになってほしいものです。

会長の活動方針をモットーとし新会長を支え、開かれた内科医学会の確立を目指し微力ながら課題に取り組んでまいります。会員の先生方の御協力、御支援を宜しくお願い申し上げます。



南 信明

平成21年5月、中山 脩郎前会長の後任の中 佳一会長から第3地区からの副会長にとのお話があり情報・広報委員会担当の副会長を務めさせていただくことになりました。

よろしく願いいたします。

平成21年度の情報・広報委員会活動は岡 正直委員長のもとに、I. 出版事業として

1) 神内医ニュース2回の発行、2) 学会誌の発行および、3) 神内医パンフレットの発行をいたしました。II. IT 関連としてはホームページのさらなる充実を目指しております。

神内医ニュースは今回の第61号と第62号を予定しております。IT時代になりその存在意義

について再検討の時期であると思いますが、会員の皆様に読んで頂ける紙面作りを目指しております。学会誌については中会長が委員長の時代から原稿をそろえるのに大変苦勞されておりましたが、今年度も発行を予定しておりますので会員の皆様のご協力をよろしく願いいたします。神内医のパンフレットについては今年度内科医学会の重要課題である会員増強を目的とし作成されました。岡 委員長が骨子を作成してくださり立派な物が出来上がりました。県内の多くの内科関連医師、特に若手の医師、病院勤務医に県内科医学会を知っていただき、多くの先生方に参加して頂くことを目的としております。地区内科医会にお送りしておりますのでご活用をお願いいたします。医療情報委員会活動として昨年医療保険Q&Aが作成され、レセプト作成に大変役立つとご好評を頂きました。医療・介護保険制度の変更に合わせ、今年度は介護保険に関する事項も充実した冊子が作成できればと考えております。

ホームページについては県内科医学会の年間行事はもとより各地区内科医会からの情報も出来る限り掲載し、各医会で開催される行事、講演会の内容が閲覧できるようにしたいと思っております。各医会の情報は県内科医学会のホームページにアクセスして頂くと記載することができますのでよろしく願いいたします。

大変微力ではございますが県内科医学会のこれからのさらなる発展のため中会長の補佐役として働くことができればと思っております。



梶原 光令

長い間、神奈川県内科医学会を牽引戴きました中山 脩郎会長が会長職を退かれ、新たに中 佳一先生が会長に選出されました。中先生の会長就任に伴う会則の一部変更により、この度私が第4地区選出の副会長に任命

されました。浅学非才の身で、ご期待に副えないことも多いことと思われませんが、私なりに全力を尽くすつもりです。今後ともご指導・ご協力宜しくお願い致します。

副会長としての担当は医療・介護保険と制度となりました。昨年迄の医療保険委員会 委員長としての経験と20年近い国保や支払基金審査員の経験を生かし、会員の皆さまにとって役に立つ委員会にしたいと思っています。今までの医療保険委員会は医療費改定時の「医療保険Q&A」の編集が主な役割でしたが、昨年度は各地域内科医会の協力の下に特定健診の各自治体の取り組みについてアンケート調査を実施し、昨年度発行の「Q&A」にその結果を掲載しました。今回の特定健診は今までの基本健診に比べ内容に乏しく、乏しい内容にしては受診者負担金が高く、しかも医療機関にとっても事務負担量が大きく、内科医にとっても受診者にとっても決して良い健診とは云えない様に思われます。しかし各地区医師会のご努力で、その欠点がかかり改善されている地区も見られますが、思ったより行政によりその差が大きいことが判明し、今後の行政との交渉の参考資料として役立つものと好評を得ました（と臆目に考えていますが）。今後ともこの経験を生かし、単なる「Q&A」発行だけではなく、各地域での医療・介護の現状や健診制度についてのアンケートを実施し、医療費改定についての会員の要望とともに、医療・介護の現状や健診制度の問題点や地域差について調査し、今後の地域医療に役立てて頂きたいと考えています。また認定医や専門医、総合医問題など生涯研修制度や将来検討される恐れのある保険医定年制などについての会員の意識調査も実施したいと考えています。この調査が今後の神奈川県内科医学会のあり方の検討に役立てば幸いであり、また学術委員会の活動の参考としても利用していただきたいと考えています。

神奈川県医師会との関係から見ますと、当内科医学会常任幹事の羽鳥 裕先生が県医師会理事としてご活躍のことは皆様ご承知の如くです

が、この度私も会報・広報 産業医の担当理事として県医師会理事の末席を汚すこととなりました。微力ではありますが、県医師会や日医の情報を神奈川県内科医学会に還元することにより、県医師会と内科医学会の仲立ちとなればと考えています。

これらの構想を実現するとともに、中会長を中心とする新執行部の活動を円滑に進めるためには、皆さまのご助力が欠かせません。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



山本 晴章

今期から総務担当の副会長を拝命し、また、副会長が地区毎に任命されたことにより、第5地区の窓口としての役割を担うべく微力ながらお役に立ちたいと考えております。

神奈川県内科医学会は、神奈川医学会分科会の一つとして40年を超える歴史を持ち、現在に至るまで様々な社会ニーズをとらえて発展した由緒ある会であり、歴代の会長をはじめとする役員とそれを支える会員が一丸となって地域医療に寄与してきた成果が現在の会を築きあげ、今後もその役割はますます重要となるものと考えております。

特に創生期から時期を置かずして病診連携事業として、大学医との連携による医学の研鑽の場としての臨床医学研修講座や、地域内科医会相互の連携に通ずる会員の発表の場としての集談会が開催されたことは、当時として全国でも先駆的な事業であり、県内医療者の高い意識への改革を牽引したものと思われま。その後、前会長の中山先生のご指示の下で、高血圧神奈川スタディ、神奈川糖尿病対策委員会、神奈川禁煙分煙推進委員会、神奈川肝炎対策委員会、神奈川認知症対策委員会、神奈川ジェネリック問題対策委員会の各事業が立ち上げられ、最新

の知識を得る機会を得ることとともに神奈川県からのエビデンスを発信すべく学術委員会を中心に活動を推進しております。

このように、内科医学会の活動が活性化するにつれ、その組織的活動および運営は多岐にわたるものとなり、総務委員会は、委員会間の縦横の連絡や運営方針に則った活動を実行していくために情報を集約する役割があるものと思われれます。

また、常任幹事会・全幹事会、会長会、総会・評議員会等の基幹会議や各委員会、地域の行事とのスケジュール調整は、なるべく重複を避けるよう計画されなければなりません。早速新会長から会議の運営進行についても効率よく進行され、出来るだけ多くの参加者からの発言を得られる工夫をするよう指示がなされています。

さらに会議での決定事項を速やかに会員に周知させるための伝達手段を情報・広報委員会と協力してIT化し、会員の全員が参加できる環境を構築しなくてはなりません。

協賛・共催団体や、日臨内、県医師会その他の関係諸団体との窓口は、総務に一本化されることになり、情報を整理した後に関係各位に振り分けられます。

次に会則・細則の改正議論や、時代に即した対応に必要なとされる規程は、総務委員会において立案し常任幹事会に提案したいと思えます。

最後に、現在当会は単年度収支では実質赤字の状態であり、活動を縮小させることなく継続させさらに新規事業への道を开拓するためには会員の増強が必須であります。未加入の医師や病院を、地区単位で勧誘し入会者を増やすために尽力いただきたいと思います。

多くの課題が一つずつ解決され、ますます当会が充実した会へと発展できるよう、会員の皆様に積極的にご参加ご協力いただけるよう、よろしくごお願い申し上げます。



横浜市立大学大学院医学研究科
分子内分泌・糖尿病内科学

寺内 康夫

平成19年5月から神奈川県内科医学会副会長を拝命しております横浜市立大学

の寺内です。中会長のご指名により、もう1期副会長を勤めさせていただくことになりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

私は昭和37年に長野県松本市で生まれ、小中高とずっと松本で過ごしました。その後、大学進学を機に東京に出てきて、平成17年1月より横浜市立大学教授に着任し、糖尿病や内分泌疾患を専門とする内科の教室を主宰しております。安全・安心・思いやりの医療を提供するとともに、未来志向型の創造的な医療の構築を目指して日々奮闘中です。日常臨床、医学生・研修医・シニアレジデントの教育・指導に加え、基礎研究・臨床研究の指導、学内外への貢献、さらに全国での講演世界中の研究者とのコミュニケーションなど、1日が48時間あっても全然足りません。私が着任したときと比較して、県内の糖尿病診療環境が少しずつよくなってきているのは、うれしい限りです。行政・医師会の方と一緒に神奈川県糖尿病対策推進会議を本格的に始動できたのが、最近の成果です。今後も内分泌・代謝・糖尿病領域に進む若手医師やメディカルスタッフの育成に努め、県内の診療環境をさらに整備したいと思います。

今回、副会長をもう1期お引き受けするに際し、実地医家と大学が緊密な関係を保ちながら、診療能力の向上や医療環境整備のみならず、臨床研究にも積極的に臨んでいる姿勢に、自分自身ももっともっと頑張らないといけないと思っています。将来の大規模臨床研究実現を目指して、海外の公衆衛生大学院に留学中の若手医師が、当教室には2名おります。彼らが帰国後、神奈川県内科医学会の先生方と思う存分、臨床研究を展開してほしいのです。また、そんな彼らに続く者がどんどん出てきて欲しいと切望し

ています。

今後も、実地医家の先生方とともに神奈川県
の臨床内科学全般の発展に尽くし、将来神奈川
発のエビデンスを世界に発信できる基盤づくりに
邁進したいと思っておりますので、どうぞ宜しくお
願い申し上げます。

委員長



総務委員会 委員長
武田 浩

この度、神奈川県内科医
会総務委員長の大任を仰せ
つかりました。

私は、前内科医学会会長の中山先生に会長推
薦にて内科常任幹事となり、まだ3年と経験の
浅い人間でございます。前委員長の山本先生
のように、総務委員会の運営を流暢に束ねる個性
の持ち主でもありません。内科医学会会長とし
て5月より就任された中会長の下、総務委員
会の円滑な運営を心掛けていきたいと考えてい
きたいと考えています。

総務委員会として、内科医会内部においては、
各地区内科医会との連携、各事業委員会相互
の円滑な運用のためのルール、コミュニケーション
づくりを心掛けていきたいと思っております。対
外的には内科医学会会員の増員をはかり、また
市民講座などを通じての広報活動を支援して
いきたいと考えております。またメーカー主
導の大規模研究ではなく、臨床実地医としての
研究、発表も支援、発展させていく必要あり、
質の高い研究、成果の発信をするための体制
の充実が必要と思われま。活動が広がること
による外部との摩擦に対応する、リスクマネ
ージメントも考慮し対策をとることも必要と
考えております。

ともあれ、総務委員会の基本は内科医学会
の皆さんが安心して活動できる環境整備を
モットーとしておりますし、患者さんに質
の高い医療

を提供できる内科学医会の活動を展開でき
ればと考えています。

会員の皆様と力をあわせ、内科医学会の一
層の発展に努めていきたいと思っております。

何とぞ、皆様のご支援よろしくお願
い申し上げます。



情報・広報委員会 委員長
岡 正直

1760年代から1830年代に
イギリスに始まった産業革
命は、人々が大量の工業製
品を手にするを可能にし、われわれの生活
スタイルを一変させた。その一方で資源の大量
消費や大量破棄による環境破壊といった大きな
負の側面も無視できないものとなっている。こ
の産業革命に比肩する大きな変化をもたら
したのは、1980年代に始まるIT (Information
Technology) 革命である。有史以来人類が
遭遇したことの無い、発信し受容する情報量
の加速度的な増大と伝達速度の高速化により、
生身の人間の情報処理能力の限界を超えてあ
ふれ出た情報は、利用されないままわれわれ
の周辺に堆積あるいは消散するようになった。
単に利用されない情報だけでなく、兵器や麻
薬の製造方法や、迷惑メールや公序良俗に反
する写真や文書、「出会い系サイト」など、事
件の契機となるような有害な情報もまた急
増中である。

このように利用されないか、または有害な
情報の中には、もし適切に利用されれば価値
ある情報が一定の割合で含まれているに違
いない。日々大量廃棄される家電や電子機
器の中から、貴重な希少金属（レアメタル）
を効率よく取り出すことができれば、ゴミ
の山は「都市鉱山」として宝の山になると
最近よく言われるようになった。われわれ
もあふれる情報の中から貴重な情報を効
率よく取り出す「魔法の装置」が欲しい
と思う。これさえあれば、情報量が増える
のに比例して、しかも人間の情報処理能
力を超えない範囲で、価値ある情報を利用
できるのだ

から。

神奈川県内科医学会の活動は、われわれ臨床医が手に入れることができる現実的な「魔法の装置」のひとつである。各委員会のメンバーの献身的な働きの一つ一つが高性能な部品となって、この「装置」の素晴らしい性能を生み出している。例えば、さまざまなテーマのもとに企画された講演会、事業委員会が推進する臨床研究や日々の診療に役立つドキュメントの発行など多彩な活動が行われている。したがって神奈川県内科医学会の活動にさまざまな形でコミットすることによって、あふれる情報の海の中から臨床医に必要な価値ある情報を効率よく手に行うことができるのではないだろうか。

言うまでもなく情報広報委員会は神奈川県内科医学会の重要な部品の一つである。対外的な学会活動の発信のみならず、学会内部の情報交換の流れの活性化も行う必要があると考える。今回委員長就任にあたって、当委員会の性能をさらに高めることが与えられた使命であると思っている。「神奈川県内科医学会のご案内」リーフレットの完成は対外的な当学会のプレゼンスを高め、新入会員の増加に資するものと期待している。現時点の方向性としては、速報性という原点に立ち戻り、「神内医ニュース」を年4回のペースで発行すること。また「学会報」を毎年3月末に発刊すること。そして、「神内医ウェブサイト」の内容強化と各種委員会の運営を活性化するための「メーリングリスト」の整備を目指している。

当委員会の活動に、ご協力ご支援のほど心よりお願い申し上げます。



保険・制度委員会 委員長
小林 明文

このほど梶原光令先生、現神奈川県内科医学会副会長の後任として、神奈川県内科医学会、保険・制度委員会の委員長に就任

した小林内科医院、小林明文です。本年6月上旬頃に梶原先生より委員会の委員長になってほしい旨の電話がありました。私、実のところ保険・制度委員会の知識はほとんどなく、また常任幹事になってから日も浅く、経験もほとんどないため強く固辞をいたしました。しかし梶原先生から私が全面的にバックアップするからという心強い言葉をいただき、引き受ける決心をした次第であります。

私は昭和22年東京の両国生まれ、昭和48年昭和大学医学部を卒業後昭和大学医学部第二内科に入局しました。昭和50年より昭和大学藤が丘病院消化器内科に移り、消化器内科、主として肝臓病学を専攻し臨床、研究を行なっていました。専門分野は肝内胆汁うっ滞症及び胆石溶解療法であります。昭和61年に川崎市麻生区内に内科、小児科、胃腸科を開業しました。医師会関係の仕事はあまり積極的には行なっていませんでしたが、川崎市内科医会常任幹事を10年以上務めた関係と思われませんが、三川前川崎市内科医会会長、現県内科医学会副会長の推せんにより、平成19年6月より神奈川県支払い基金の審査委員となりました。現在2期目であります。この基金において梶原先生に色々とお話を伺い、多少なりとも審査の仕事ができるようになりました。そしてこの事が私を医療保険委員会委員長に推せんしていただいたものと思っております。期待に応えられるように最大限努力をしていくつもりでおります。なお医療保険委員会のメンバーは私以外では担当副会長：梶原光令、副委員長：濱田芳郎（海老名市）委員：桑原幹夫（横須賀市）、濱名哲郎（鎌倉市）、原 芳邦（茅ヶ崎市）、高橋克孝（平塚市）の各先生方です。今後色々とお話を伺いたいと考えております。

さて来年、平成22年には診療報酬の改定が行なわれます。外来管理加算の5分間ルールの問題や、特定疾患指導管理料、再科再診料、長期処方、内科判断料のほかレプトオンライン化の事などまだ不透明な状態です。現在日臨内でも厚労省に要望書を提出しているようで

あります。私たちとしてはより判りやすい医療・保険Q&Aの発行等により会員の先生方にお役に立つ情報を少しでもお伝えできればと考えております。そして査定を少しでも減少させ、収入増につながればと思っています。その他今後の検討課題として総合医、家庭医制度など生涯研修に対するの会員の意識調査、医療経済などについての調査、研究、特定健診、がん健診などの各地域での取組みの再調査、県医師会との協力、交流についてなどがあります。まだまだ勉強不足ではありますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。



学術Ⅰ委員会 委員長
伊藤 正吾

平成21年5月に神奈川県内科医学会会長の中山脩郎先生が退任され、新会長に中佳一先生が就任されました。それにともない内科医学会の組織構成が一部変更され、学術委員会は学術Ⅰ委員会と学術Ⅱ委員会に分けられました。私は前期まで神奈川県内科医学会の学術委員長を務めていたこともあり、今年度から学術Ⅰ委員会の委員長を一期二年間勤めさせて戴くことになりました。宜しくお願い致します。

今回新たに組織されました学術Ⅰ委員会は、県内科医学会で主催する年三回の講演会の他、臨床医学研修講座ならびに集談会の企画も受け持つことになりました。今まで以上の仕事量となりますので、しっかりとした気構えを持ち、

学術Ⅰ委員会委員の先生方のご協力を得て、今後の活動に向け対応して行く所存です。

平成21年7月8日に会長、副会長、委員長、副委員長および委員の先生方の出席のもと第一回学術Ⅰ委員会を開催し、今後一年間の活動予定につき検討いたしました。今後の予定としては以下のように予定されております。平成21年9月27日(日)に川崎市内科医会と聖マリ医大担当で臨床医学研修講座を聖マリアンナ医大にて開催、11月21日(土)に秋季学術総会をホテルコスモ横浜にて開催、来年の平成22年1月21日(木)に新年学術大会をバイシェラトン横浜で開催、2月7日(日)に集談会を横須賀内科医会が主催し湘南国際村会議センターにて開催、さらに5月15日(土)には総会時講演会がコンカード横浜(横浜駅東口の会議室)にて開催されます。また、今回の委員会で学術講演会の時間があまり長くなりすぎないように、特別講演は原則2題以内とすることが提案されました。また、昨年度開催された地区幹事会で県内科医学会の講演会を「横浜以外の地区で開催してもらいたい」との希望を踏まえ、次年度の秋季学術講演会を横浜以外の都市で開催しては如何かとの意見がありました。今後、積極的にご要望に沿えるよう検討することになりました。

以上、第一回目の委員会の内容をご説明いたしました。出席された先生方から色々のご意見をいただき、学術Ⅰ委員会は順調に動き始めることができました。今後、多くの会員の先生方にご出席いただけますよう、興味ある内容の講演会を企画すべく努力する所存です。会員の先生方のご協力を宜しくお願い申し上げます。



学術Ⅱ委員会 委員長
松葉 育郎

中会長の発案により、新たに学術委員会2という委員会が今年度から新設され

た。

非力ではありますが、この度、自分は委員長を拝命させていただきました。全力を上げ、期待に答えられるように努力していく所存です。県内科医学会の諸先生方のご指導、ご鞭撻を厚くお願い申し上げます。

すでに、県内科医学会では6事業委員会が活動しており、今日までに成果を各分野であげてきている。これらの委員会活動の円滑なる運営、対外的な学会発表、講演会などについて支援する、また、相互の委員会の交流、共同事業などの立案、実施などを以下の項目に分けて基本的な活動を行うことが指示されている。a 課題別臨床研究 b 社会、公益活動 c 学会発表 d 成果文書化 e 新企画

内科学の広範囲にわたる領域を網羅している6事業委員会ははじめ、それ以外の領域の扱い、全体としての整合性をどのように構築していくか、新委員会には個別の課題が山積しています。委員会は、各事業委員会から委員長、副委員長を中心に構成されており、自由闊達な意見交換ができるように、また、顔がみえる連携を模索していきます。さらに、委員用の Mailing List の立ち上げにより、相互の委員会の活動状況の把握、情報交換を円滑に Speedy に行える環境づくりをまず行い、実務を遂行していくつもりです。皆様のご支援を重ねてお願い申し上げます。



神奈川県内科医学会 中山脩郎 名誉会長



神奈川県内科医学会
神奈川禁煙分煙推進
委員会 委員長
長谷 章

神奈川県内科医学会の名誉会長である中山脩郎先生

との出会いは神奈川県において最も大きな禁煙推進団体である「禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議」の場でした。健康増進法が施行され、受動喫煙防止の努力義務が管理者に課せられましたが、タバコを取りまく環境は劣悪でした。私は個人的に飲食店の禁煙化やタクシーの禁煙化に力を入れて活動してきました。神奈川会議の理事の一人が私の活動に目を付けて神奈川会議に入会を勧めてくださり、神奈川会議の会長である中山先生と出会うことになりました。入会して間もなく、人前でタバコの講演をしたことがない私に中山先生は港南区でのタバコ対策のシンポジウムで話しをするように言われました。私が「人前でタバコの話はしたことがないので無理だと思います」と言いましたところ、「君が普段考えていることや、活動してきたことをありのままに話せば良いのですよ」と言われ、講演をすることになりました。それから、自然に私の禁煙に関する活動、講演活動が活発になっていきました。中山先生は「医者はまだ診療をしているだけでなく、社会的貢献をしてこそ、その存在意義がある」と良く言われます。中山先生は日本におけるタバコ対策はじっくり時間をかける必要があると良く言われます。日本ではタバコは合法的に売られている以上、強制的な禁煙はかえって対策を遅らせる可能性が

あり、じっくりと時間をかけて、タバコの害を一般市民に周知し、学生に対する防煙教育の徹底が必要だと考え、忙しい診療の合間に実行されてきました。先生が開業されている港南区では中山先生が中心となり、市民とともにタバコ対策のシンポジウムを長年、定期的に行っており、学校では防煙教育を積極的に行い、非常に多くの学生が中山先生のおかげでタバコの真実を知ることができました。平成22年4月より施行される神奈川県公共施設における受動喫煙防止条例はまさに松沢知事を中山先生がバックアップしてできあがった条例と言っても過言ではないと思います。松沢知事の選挙マニフェストの第一番目が禁煙条例でした。神奈川県庁に赴き、神奈川会議は団体として最初に条例案を提出し、松沢知事と30分に及ぶ対談を行いました。条例制定を目指し、タバコに関する市民公開フォーラムの開催を行い、日本禁煙推進医師歯科医師連盟の総会を横浜の開港記念会館で開催し、松沢知事をお呼びし、30分にも及ぶ条例に関する講演（長めのご挨拶）を全国の医療従事者に聞いていただくことができました。そして、条例が制定される時のカギとなる神奈川県議員を神奈川会議の活動とリンクさせました。

中山先生のわき出るアイデアと実行力で行政を後押しして、神奈川の受動喫煙防止条例は結実したのです。

禁煙医療の重要性に早くから着眼し、神奈川県内科医学会に神奈川禁煙・分煙推進委員会を設置し、禁煙指導マニュアルの作成（5種類作成）、禁煙指導用パワーポイントの作成、神奈川県下での禁煙治療の普及・啓発の講演会開催等を行ってきました。すべて中山先生がかならず参加され、活動をされてきました。同様に高血圧、肝炎、糖尿病合併症対策、認知症、ジェネリック対策等の委員会を立ち上げ、活動し、会員のレベルアップに寄与し、ひいては神奈川県民の健康保持に大きく貢献していると思います。医師を育て、医師の社会貢献の意義を自分

の活動を通じ、教授する医師が中山先生だと思っています。神奈川県内科医学会の会員の多くの方がそう思われていると思います。10年に及ぶ神奈川県内科医学会の会長としての功績に感謝するとともに、今後もますますお元気で我々に叱咤激励する名誉会長であってほしいと思います。中山会長の携帯電話のメールアドレスは「このやろう～123!」です。ここに先生の「負けてたまるか！頑張るぞ～!」という生き様を見るような気がします。



「学会の動き」

学術I委員会 委員長 伊藤 正吾



神奈川県内科医学会学術委員会が企画する講演会は総会時学術講演会、秋季学術総会および新年学術大会の三回ですが、本稿では平成20年11月開催の秋季学術総会以降について記載さ

せていただきます。

毎年11月に開催される秋季学術総会は、高齢者に関する内容の講演会として位置づけられています。そこで、平成20年11月15日に大塚製薬の共催により崎陽軒本館にて開催された学術総会では、高齢者の医療制度をテーマに取り上げパネルディスカッションを企画しました。また特別講演は横浜市立脳血管センター永山正雄先生にお願いし脳梗塞慢性期患者の抗血栓療法についてお話をお伺いしました。学術総会の時間の多くを高齢者医療制度についてのパネルディスカッションにあて、現在社会問題となっている高齢者医療の現状と問題点を洗い出しました。パネルディスカッションでは日本臨床内科

医会理事 清水恵一郎先生から、かかりつけ医機能を実践するためにも後期高齢者診察料を算定すべきであるとの話を伺いました。神奈川県医師会理事 羽鳥裕先生からは政府の医療費抑制政策が患者の医療機関へのフリーアクセスを抑制し、一人のゲイトキーパー医師による管理医療の方策は、皆保険制度の精神に反するため後期高齢者診察料を容認することはできないとする県医師会の立場を説明されました。横浜市医師会代議委員会議長、横浜市プライマリ・ケア医会代表世話人の中野雄二先生からは、老人医療を支えるため病院を開設したのに、介護保険施行のため介護老人保健施設を併設しなければならなくなった背景、また入院もしくは入所した患者を自宅に退所することが困難となり、中間施設としての働きが果たせない現状を伺いました。日本医師会常任理事 内田健夫先生からは高齢者医療制度に対する日本医師会の方針として、高齢者医療制度の改革の経緯、概要が説明されました。高齢者の保険料は最低限に抑え、患者負担は年間所得額で差別するのでなく、患者一律とすべきとする日本医師会の考え方を説明していただきました。以上の話を受けて四人のパネリストと医事評論家の行天良雄先生、医学会会長 中山脩郎先生を座長に今後の医療制度の在るべき方向性に関する討論が行われました。パネルディスカッションの終了後、フロアーから多数の質問があり、充実した時間を持つことが出来ました。

平成21年1月15日には第一三共製薬の共催にて新年学術大会をベイシェラトンホテルにて開催しました。本学術大会では、共通の話題のもとに2題の特別講演を伺うこととされ、今年は腎臓を共通テーマとした講演会の開催を計画しました。講演の一つは最近話題となっている慢性腎臓病(CKD)の話の名古屋大学 松尾清一先生に伺いました。日本腎臓学会のCKD対策委員長をされている松尾先生から、解り易くCKDに関する説明を受け、更には日常開業医が遭遇する可能性の高い糸球体腎炎や動脈硬化性腎疾患についての説明も伺いました。もう一

題の講演は糖尿病性腎症に関するものとししました。平成20年度から神奈川県内科医学会・糖尿病対策委員会では糖尿病腎症発症抑制を目的として、医学会会員による臨床研究を行うことを計画し、活動を始めておりました。そこで、この臨床研究に参加されている東海大学 鈴木大輔先生に糖尿病性腎症に関する話を伺うと共に、現在企画中の糖尿病腎症に関する臨床研究の概要を発表していただき、講演会に参加された先生方にご協力をお願いいたしました。

平成21年5月16日(土)に三和化学の共催にて新横浜プリンスホテルで定時総会時学術講演会が開催されました。はじめに、特別講演Iとして慈恵医大准教授 森豊先生より「みてわかる糖尿病患者の食後代謝異常」と題した講演を伺いました。24時間ヒトの血糖をモニターすることにより、各薬剤投与による血糖の変化を検討し、経口糖尿病薬やインスリン投与による血糖値の推移を明らかにされました。食後の血糖値が高くても、投与されている糖尿病薬の作用により食前の血糖値が低くなることから、血糖値の平均を反映するHbA1c値では食後の高血糖状態が反映されないことがあります。そのため、食後血糖の上昇状態を知るには、高血糖のため糸球体からろ過され血中より流れ出た糖が、尿細管で過剰に吸収される際、逆に尿細管からの吸収が阻害され、結果的に血中の値が低下する1.5GAを指標とするのが好ましいとのお話がありました。

次に、各事業委員会報告があり、活発に活動している事業委員会の状況が会員に伝えられました。そして、平成21年2月15日に川崎内科医学会の主催にて川崎日航ホテルで開催された内科医学会集談会での優秀演題二題の表彰と発表が中山会長の座長のもと行われました。一題は川崎市医師会のたくま幸クリニック 詫摩 哲郎先生による「インスリングルギンの週3回打ちから本格的なインスリン導入に成功した2型糖尿病の1例」、もう一題は聖マリアンナ医大腎センター 永田晃平先生による「当院における高血圧と睡眠呼吸障害についての検討」が選

ばれ、表彰のあと口演発表をしていただきました。

そのあと、特別講演2として医事評論家 行天 良雄先生から「混乱する医療行政」と題しご講演を伺いました。行天先生からはいつものことですが、立て板に水が流れる如くの饒舌なお話を伺いました。まず現在の政局の話から始められ、豚インフルエンザが発症したことで、強毒性と言われる鳥インフルエンザ対応用に重装備した医師が駆り出され、都市機能を麻痺させるが如くの規制を引く厚労省の対応方法に対し、過剰対応ではないかとの話題を提供されました。そのあと話の話題を現在の医療行政に向け、私ども臨床医のあるべき姿についても言及されました。

最後に、特別講演3を中山会長が「神奈川県内科医学会 会長在職10年にて思うこと」と題し、神奈川県内科医学会の歴史から、現在活動している各事業委員会立ち上げの想いまでを、当時を偲びながらまた、思いを込めながらお話いただきました。遣り残した物は、ほとんど無いと話されていましたが、いつもと変わらないお元気な話しぶりの中にも何か寂しさを感じたのは私だけだったのでしょうか？中山先生のご講演のあと、次期神奈川県内科医学会・会長に推薦された中先生よりご挨拶をいただき、今後の神奈川県内科医学会の運営方針についてお話を伺いました。

さらに、当日は第23回日本臨床内科医学会の学会長である埼玉県内科医会・会長の大島先生が埼玉県から当日の講演会にご参加され、平成21年10月11,12日に大宮ソニックシティーにて開催される日本臨床内科医学会総会の学術講演会について説明され、神奈川県内科医学会会員の先生方に総会への参加を呼びかけられました。最後に、副会長の三川先生により閉会の辞が述べられ、平成21年度の定時総会時学術講演会の予定を無事終了することができました。

以上平成20年度から21年度に開催されました神奈川県内科医学会の講演会活動を「学会の動き」として、簡単に振り返ってみました。平成

21年度から県内科医学会の会長が中佳一先生に代われ、年三回の講演会に集談会、医学臨床研修講座の企画も学術委員会Iに組み込まれました。また今後、講演会の開催方法や内容が少しずつ変更されることがあると思いますので、次の「学会の動き」の中でご報告させていただきます。

■ 事業委員会報告 ■

糖尿病対策委員会

糖尿病対策委員会委員長
松葉 育郎

当委員会の目的は、神奈川県内の糖尿病患者さんの糖尿病合併症を少なくすることを目標にしています、そのために3大合併症に対する対策班を設け、それぞれ中心に活動をしている。

今年、腎症班(班長:伊藤先生)の調査研究に日本腎臓財団からの研究費補助をいただき、各地区での対策委員の全勢力を注ぎ、(尿中アルブミンを測ろう!)を合言葉に活動しています。

この5月より、7月までに(糖尿病腎症を考える会)を各地区で11回開催した。同時に、アンケート用紙による腎症、CKDに関する調査を実施し、尿中アルブミン測定の実施を推奨し、早期に腎症を発見することの重要性を会員の先生方にお知らせしてきました。

8月7日現在、2794名分のアンケート用紙が回収された。9月末を締め切りまでに、当初の目標である10,000例を目指し、各地区内科医会の幹事の先生方にも協力を得て、アンケート調査への参加を会員の先生方に御願ひしています。先生方のアンケート調査への参加も得ながら、糖尿病患者さんにおけるCKDの実態、尿中アルブミンの評価などの県下の状況をまとめていきます。諸先生方のご支援を御願ひ申し上げます。

肝炎対策委員会

肝炎対策委員会委員長
多羅尾 和郎

第1回肝炎対策委員会は中佳一会長、宮川政昭副会長の出席のもとに行なわれ今後の活動方針について検討された。活動方針についての全体としての統一意見としては、厚生労働省の指導のもとに、C型慢性肝炎のインターフェロン治療に対する各自治体の治療費支援に関して、われわれ肝炎対策委員会としては、C型慢性肝炎患者およびC型慢性肝炎ウイルス陽性者（保有者、healthy carrier）の掘り起こし、捨り上げに全力を尽くそうということであった。これは、われわれ内科医を受診してくる患者のみならず、眼科、耳鼻科、整形外科、婦人科、歯科医等を受診して、たまたま見つかった患者に対しても、それぞれの科の主治医を啓蒙して、大いに掘り起こしを手伝ってもらおうというものである。この目的の為に各種テーマを決めてワーキンググループを作り、小さなパンフレット様のものを作り、これを他科の各医師会に配布するのも一手法であろう。このパンフレット用のテーマの一例としては、①HCV陽性患者の取り扱いについてのGuide（flow chart様のもの）、②肝機能正常患者をめぐる諸問題（現在ではHCV陽性でALT値正常症例のうち、ALT30～40単位のものには肝癌が発生する可能性があるため、ALT値上昇を認めるC型慢性肝炎と同様にインターフェロン療法を行なうことになってきている）…等々である。

この主要方針の他に、一般市民を対象とした市民公開講座の開催（宮川副会長、岡正直委員を中心に）、および、医師の啓蒙を主目的とした年3回の教育講演会を開催することが決定された。即ち、肝炎対策を主題として全国でも著名な演者を招待しての年1回の大講演会の開催と、これまで10回以上定期的に開催されてきた「肝癌撲滅を目指す病診連携の会」を発展的に解消して、「肝臓病を考える病診連携の会—肝

癌撲滅を目指して—」と命名変更された会の年2回開催、合計年8回の肝炎対策のための啓蒙講演会が行なわれる予定となった。

認知症対策委員会

認知症対策委員会委員長
高岸 泰

我が国における人口動態は世界にも類を見ない速さで高齢社会に突入しています。それとともに認知症高齢者に関する問題が顕在化して参りました。増加する認知症患者さんの早期診断と治療が必要とされ、今後は患者さんを取り巻く御家族や地域ケアシステム、行政との連携が必須となってくるものと考えました。神奈川県内科医学会は会員の生涯研修を目的として、「認知症を考える神奈川の会」を平成14年初頭に発足させました。

勉強会は第12回まで回を重ねて、毎回多数の御参加を戴いています。各内容は<http://kanagawamed.org/>の中から認知症受け入れ医療機関リスト(2009/07/14版)<http://kanagawamed.org/dementia/index.html>に進んで、<http://kanagawamed.org/dementia/kananin5.htm>にて御覧戴けますが、診断に関する問題から治療に関する問題、患者さんを取り巻く法的な問題から病診連携、地域におけるネットワーク形成、新治療薬の開発等のテーマで開催して参りました。

第12回認知症を考える神奈川の会は平成20年9月18日（木）横浜ベイシェラトンホテルで実施しました。内容は、『地域における認知症患者さんを取り巻くネットワークに対する「かかりつけ医」の重要性』というものです。

シンポジウム 認知症ネットワークの必要性
「かかりつけ医への期待と不安」

飯田 茂 氏

「かかりつけ医からみた認知症ネットワークの必要性」

千場 純 先生

「VSRADを活用した認知症地域連携への挑戦」

村松 和浩先生

「中原区における“街ぐるみ認知症ネットワーク”について」 石渡 明子先生
特別講演

「アルツハイマー病治療薬開発の夢を追って」
京都大学大学院薬学研究科
創薬神経科学講座 教授

杉本 八郎先生

以上にて、211名の先生方に御出席いただきました。大変有意義なお話しで大盛況でした。この際「5つの物品記名テスト用キット」を参加された先生全員にお配りしました。

次回の第13回認知症を考える神奈川の会は開催日程については平成21年9月17（木）横浜ベイシェラトンホテルを予定しております。

地域連携の一環として、県内の病院と認知症を診ていただける先生方へのアンケートをお願いし、認知症高齢者の紹介や受け入れ体制を確認させていただき、それに基づき神奈川県内科医学会としてWEB上にまとめて、紹介等に活用させていただくなど日常診療に役立てています。

WEBのアドレスは <http://kanagawamed.org/dementia/index.html> です。

平成20年夏から平成21年の1月までに神奈川県内の20床以上の病院に対して再度のより詳しいアンケートによる調査を実施しました。それを神奈川県内科医学会のホームページに掲載しましたので是非御活用ください。

認知症を診ていただける先生方へのアンケート調査を藤沢市医師会の協力を得て実施しました。 <http://www2.tba.tcom.ne.jp/takagishi/fujisawa/fujininindex.htm> です。

クリニカルカンファレンスを各地域にて実施しています。かかりつけ医に認知症を正しく御理解いただくために「地域における認知症対策実践講座」を積極的に市・区ごとに細かく実施しています。修了された先生には神奈川県内科医学会として修了証を制作し発行しています。この内容は特定非営利活動法人 高齢者医療研究機構制作によるクリニカル・カンファレンス・セミナー教材DVDを用いたもので8時間

をかけるものです。受講された先生方が増えましたので、今回アンケート調査をした上でそのリストと診療内容をWEB上に公開しました。アドレスは <http://kanagawamed.org/dementia/kananin3.htm> です。

御紹介等に御利用いただければ幸いです。

今後は行政と日本医師会の主導による認知症サポート医とも連携を計り、協力して地域医療の一翼を担うようにして行きたいと考えています。

引き続き、市民健診における認知症早期発見のためのスクリーニング検査や、地域におけるネットを利用した高齢者の医療とケアの連繋についても研究して行く予定です。

禁煙・分煙推進委員会

禁煙・分煙推進委員会委員長
長谷 章

当委員会は禁煙医療の普及に力を注いでおり、禁煙指導マニュアルの作成、禁煙医療の講演会開催を主体にして活動しています。禁煙指導マニュアルは「禁煙医療のための基礎知識」から始まり、会員向けの「今日からできるミニマム禁煙医療」まで5冊の冊子を作成し、パワーポイント版の禁煙指導用CDRも作成し、内科医の禁煙医療実践のレベルアップに寄与してきました。委員会は月に1～2回開催しております。現在は「今日からできるミニマム禁煙医療」の市販版に向け、誠意努力中です。禁煙医療の講演会は神奈川県下の各地区の内科医会において順次開催してきました。中山脩郎名誉会長が「タバコの害をもう一度学習しよう」という題名で、能動喫煙の害、受動喫煙の害、世界のタバコ規制、日本の今後のタバコ対策のありかた等を膨大な資料をもとに講演されました。私が「禁煙医療の実際」という題名で、禁煙外来の実際、禁煙医療の普及等の講演をしてきました。「禁煙医療の実際」の講演では北田 守副委員長、加濃正人委員にもお手伝いいただきま

した。今後は禁煙外来の実際の場面を想定した講演会の開催を考慮中です。

当委員会の委員の構成員は、中 佳一会長、中山修郎名誉会長、長谷 章委員長、北田 守副委員長、古木 隆元副委員長、小野 容明、加濃 正人、古河 哲哉、野村 良彦、宮下明、山田 峰彦、徳川 英雄、藤原 芳人、原田久、相沢 政明の各委員の15名です。特筆すべきは各地区の内科医会で中心となって活躍している先生方が委員になられており、小児科医である藤原 芳人先生、行政関係の医師から精神科医となった原田 久先生、薬剤師である相沢政明先生、医師であり、臨牀心理士の資格を持ち、タバコ対策に力を注ぐ加濃 正人先生が各々の立場での意見を述べ、委員会としての質の担保に寄与している点が大きな特色と言えます。

高血圧神奈川スタディ委員会

高血圧神奈川スタディ委員会委員長
佐藤 和義

我が国の高血圧患者数は4,000万人と言われ高齢化社会を迎え更に高血圧患者数は増加すると推測されます。高血圧の持続は動脈硬化を促進し脳、心、腎などの主要臓器障害を合併し死亡率の上昇やQOLの低下を招きます。そこで、高血圧患者の早期診断と厳格な血圧管理が重要とされ日本高血圧学会から高血圧治療ガイ

ドラインが示されている。しかしながら、2006年のJ-GAPのデータでは降圧目標達成率は3割前後で十分に降圧目標に達しているとは言えないのが現状であります。そこで、高血圧神奈川スタディ委員会では昨年度より神奈川県の高血圧患者の治療状況をさまざまな角度から検討し、今後の高血圧治療に役立てる目的で臨床実態断面調査を開始しました。このような県全体を網羅し、さらにその地域性まで視野に入れた高血圧治療の実態調査の報告は少なく有意義な調査と考えております。同調査は出来るだけ多くの先生方に参加頂けるようにA4一枚の調査票で神奈川家庭血圧臨床実態断面調査(K-HBPstudy)と神奈川診療所血圧臨床実態断面調査(K-CBPstudy)の2形式とし同意書の必要のない断面調査としました。昨年度の調査がこの形式での最初の調査でしたが予想以上に多くの先生方に調査票の提出を頂き感謝しております。現在高血圧神奈川スタディ委員会で調査成績を様々な角度から分析し集計を進めているところです。近いうちに協力頂いた先生方と共に各地区の先生方に御報告出来るものと思っております。また、多くの先生方に協力頂いた貴重なデータですから今後多くの学会で神奈川県の高血圧患者の治療実態報告として広く発信して行きたいと考えております。

最後に、今年度も昨年度の成績を踏まえ同様の形式で臨床実態断面調査を予定しておりますので御協力のほど宜しく御願ひ申し上げます。



この一冊

「介護現場は、なぜ辛いのか」 (特養老人ホームの終わらない日常)

著者 本岡 類

推せん執筆者

相模原市医師会

忍田 源一



著者は大学卒業後、雑誌編集者として勤務し、作家となった。

母親が脳卒中で倒れ在宅ヘルパーの助けを借りていたが、その後の改正介護保険法により、大きくやり方が変わった。そこで、両親の介護の為、小説家としての取材、ボランティアとしても役立つかなと思い、2007年秋に、ヘルパー2級の資格をとり、週2回特老ホームに勤務した。そこで体験した事実を、かなり赤裸々に記している。

最初、実習で経験した精神病棟とは異なり、入居者のプライバシーも保たれ、糞尿の臭いもなく、高齢者の楽園とみえたが、想像よりかなり異っていた事に驚かされた。

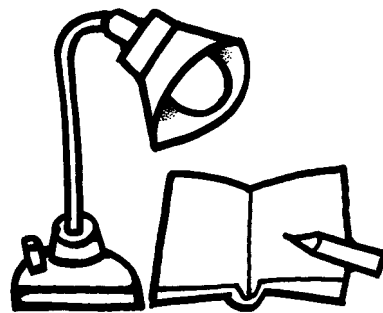
勤務時間の複雑さ、仕事の多忙さはもとより、食事、排泄、入浴の計画複雑さ、ことに入居者の予定外の要求事項の介護、性格の多用さ、コミュニケーションの少なさ、などの対応は困難

のことである。又配膳、配薬も、正確に行うために工夫が必要である。

職員同志（看護師、事務職、洗濯係、介護士）のコミュニケーションの少なさ、マニュアルの不完全さなどが、仕事を感情的にしまい、上の人とはまったストレスを下の人に下の職員はそれを入居者にあたり、介護の障害となってしまう。人の手を借りなければ、何も出来ない入居者が、外気にあたりたくも「キケン」をおそれ、散歩にもつれ出してもらえない。設備も不十分（エレベーター1基では1回に車イスで4人しか乗れない）、人手不足、人件費の低さ、にも驚かされた。「この職場は先がまったく見えない」と云う介護士の声。今後高齢者はますます増加し、介護を必要とする人は多くなるばかりである。

3Kの職場、給与の低さ、と云われている介護に対し、国はもう少し力を入れ、予算をとって欲しいと望みます。

私自身、開業初め（昭和39年頃より）は、度々の往診で在宅患者さんを看とり、昭和59年頃から社会的入院と云われた老人病院にパートとして週1～2回、8年程手伝った経験もあります。又父をヘルパーさんをお願いして在宅で介護して看とり、母は約10年間有料老人ホームにお世話になり、入居者家族の立場も経験した。ので、かなり色々と理解していたつもりでしたが、立場が代り、介護士さんからの訴えも又、大切な言葉だと感じました。





- ① 平成20年度会務報告承認の件
- ② 平成20年度決算承認の件
- ③ 平成21年度事業計画承認の件
- ④ 平成21年度予算承認の件
- ⑤ 役員改選の件
- ⑥ 会則改正の件
- ⑦ その他の件

(1) 第76回定時総会（1回）

日時：平成21年5月16日（土）午後4時00分
場所：新横浜プリンスホテル4階「若菜」

- ① 黙祷
- ② 評議員会報告
- ③ 議事
 - ア 平成20年度会務報告承認の件
 - イ 平成20年度決算承認の件
 - ウ 平成21年度事業計画承認の件
 - エ 平成21年度予算承認の件
 - オ 役員改選の件
 - カ 会則等改正の件
 - キ その他の件

④ 感謝・表彰状贈呈

感謝状：横浜市立大学医学部

川崎市内科医会

表彰状：第1地区 江口 一彦（栄区）
北田 守（港北区）
第2地区 宮島 真之（川崎区）
第3地区 山形寿太郎（横須賀市）
第4地区 関本 健人（藤沢市）
宮川千鶴子（藤沢市）
遠藤 茂通（小田原市）
武尾 宏（小田原市）
第5地区 小林 逸郎（相模原市）
中川 潤一（相模原市）
廣井 基祥（座間綾瀬）
菊田 稔（大和市）

特別功労賞：那須 義篤（平塚市）

(2) 評議員会（1回）

〔第1回〕

日時：平成21年5月16日（土）午後3時30分
場所：新横浜プリンスホテル4階「若菜」

(3) 幹事会（2回）

〔第5回〕

日時：平成21年4月16日（木）午後7時00分
場所：ホテルコスモ横浜

協議事項

- ① 役員改選について
- ② 平成21年度事業計画について
- ③ 第76回定時総会・学術講演会（5/16）について
- ④ 共催・後援について
 - ア 第29回湘南糖尿病懇話会
 - イ 2009年世界禁煙デー記念シンポジウム
- ⑤ 運転免許の取得に係る臨時適性検査の専門医の推薦について
- ⑥ 糖尿病対策委員会腎症対策班における第2次臨床研究に関して
- ⑦ 自殺予防を考える神奈川の会（仮称）立ち上げについて

報告事項

- ① 神奈川県糖尿病対策推進会議（3/31）
- ② 第1回会長会（4/2）
- ③ 第17・18回禁煙指導マニュアル作成委員会（3/23・4/13）
- ④ 第11回高血圧神奈川スタディ委員会（4/14）
- ⑤ 第19回総務委員会（4/7）
- ⑥ 会員年齢について
- ⑦ 日本臨床内科医会関係報告
 - ア 第23回日臨内学会演題募集について
- ⑧ 神奈川県医師会医事紛争特別委員会報告

〔第1回〕

日時：平成21年6月18日（木）午後7時00分
場所：ホテルコスモ横浜

協議事項

- ① 県内科医学会今期方針（案）について
- ② 平成21～22年度幹事・常任幹事選出について
- ③ 平成21～22年度各委員会編成について
- ④ 年間スケジュールについて
- ⑤ 神奈川県内科医学会パンフレットについて
- ⑥ 高血圧神奈川スタディについて
- ⑦ 神奈川県医師会 学術功労者の推薦について
- ⑧ 共催・後援について

- ア 第20回神奈川喘息フォーラム
- イ 第59回神奈川循環器講演会
- ウ 神奈川県内科医学会第5地区合同講演会
- エ メディカルトリビューン臨床医学セミナー
- オ 第3回神奈川糖尿病療養指導士認定機構研修会の後援依頼

- ⑨ B型・C型肝炎講演会の開催について
報告事項
- ① 第76回定時総会・学術講演会（5/16）
- ② 神奈川県医学会評議員・雑誌編集委員・神奈川県医師会各種委員会委員の推薦について
- ③ 認知症対策委員会（5/13）
- ④ 総務委員会（6/8）
- ⑤ 会費請求について
- ⑥ 日臨内関係
- ⑦ 神奈川県医師会医事紛争特別委員会報告

(4) 常任幹事会（1回）

〔第1回〕

日時：平成21年7月16日（木）午後7時00分
場所：ホテルコスモ横浜

承認事項

- ① 平成21～22年度各委員会編成について
- ② 神奈川県医師会 学術功労者の推薦について
- ③ 21年度日臨内関ブロ会議(9/26)について
- ④ 共催について

ア 神奈川糖尿病足病変カンファレンス
協議事項

- ① 窓口体制について
- ② 他団体への働きかけについて
- ③ 高血圧神奈川スタディ委員会より
・ICTシステムを活用した高血圧スタディ
報告事項

- ① 糖尿病対策委員会（6/15）
- ② 総務委員会（7/6）
- ③ 学術I委員会（7/8）
- ④ 禁煙指導マニュアル作成委員会（7/13）
- ⑤ 肝炎対策委員会（7/14）
- ⑥ 日臨内関係
- ⑦ 神奈川県医師会医事紛争特別委員会報告

(5) 総務委員会（3回）

〔第1回〕

日時：平成21年5月26日（火）午後8時00分
場所：県総合医療会館

- ① 分担体制
- ② 委員選考
- ③ 今期取り組み課題について

〔第2回〕

日時：平成21年6月8日（月）午後8時00分
場所：県総合医療会館

- ① 県内科医学会今期方針（案）について
- ② 幹事会・常任幹事会の司会・書記について
- ③ 第1回幹事会（6/18）について

〔第3回〕

日時：平成21年7月6日（月）午後8時00分
場所：県総合医療会館

- ① 確認事項
- ② 総務委員会年間スケジュールについて及び
幹事会・常任幹事会の司会・書記について
- ③ 高血圧委員会からの提案について
- ④ 第1回常任幹事会（7/16）について

(6) 情報・広報委員会（1回）

〔第1回〕

日時：平成21年7月17日（金）午後8時00分
場所：県総合医療会館

- ① 神内医ニュース（61号）について
- ② 神奈川県内科医学会パンフレットについて

(7) 保険・制度委員会（1回）

〔第1回〕

日時：平成21年8月28日（金）午後8時00分
場所：県総合医療会館

- ① 医療・保険のQ&Aの発行について {次年度}
 - ② 審査委員の座談会 {傾向と対策?} {単年度}
 - ③ 定時総会講演テーマの1つ {学術、保険・制度、会員優秀演題}
 - ④ 会員の意識調査 {医療制度、医療提供体制、診療報酬制度}
- (8) 学術Ⅰ委員会 (1回)
〔第1回〕
日時：平成21年7月8日(水)午後8時00分
場所：県総合医療会館
- ① 第34回臨床医学研修講座(9/27)
 - ② 第77回秋季学術総会(11/21)
 - ③ 平成21年度新年学術大会(H22.1/21)
 - ④ 第73回集談会(2/7)
 - ⑤ 第78回定時総会時講演会(5/15)
 - ⑥ 今後のあり方について
- (9) 学術Ⅱ委員会 (1回)
〔第1回〕
日時：平成21年7月16日(水)午後8時30分
場所：ホテルコスモ横浜
- ① 学術Ⅱ委員会の役割
 - ② 今後の進め方について；mailing listの活用
 - ③ 6事業委員会の活動の相互理解および会員への周知活動について
 - ④ 臨床研究、調査研究などのすすめ方について
- (10) 神奈川糖尿病対策委員会 (1回)
〔第1回〕
日時：平成21年6月15日(月)午後9時00分
場所：横浜ロイヤルパークホテル
- ① 糖尿病神経障害対策班；糖尿病神経障害の実態調査の論文の経過報告
 - ② 糖尿病眼合併症対策班；眼科医会・内科医会の共同事業に関する報告
 - ③ 糖尿病腎症班；糖尿病腎症を考える会第2次調査研究と今後の進め方について
 - ④ 動脈硬化症対策班今後の活動について
- (11) 神奈川肝炎対策委員会 (1回)
〔第1回〕
日時：平成21年7月14日(火)午後7時45分
場所：県総合医療会館
- ① 肝炎対策特別講演会(10/1)について
 - ② 肝炎に関する調査研究について
- (12) 神奈川認知症対策委員会 (1回)
〔第1回〕
日時：平成21年7月29日(水)午後7時30分
場所：県総合医療会館
- ① 「第13回認知症を考える神奈川の会」開催について
 - ② 「認知症診療クイックマニュアル」について
- (13) 禁煙指導マニュアル作成委員会 (3回)
〔第1回〕
日時：平成21年6月10日(水)午後7時30分
場所：県総合医療会館
- ① 禁煙指導マニュアルの作成について
〔第2回〕
日時：平成21年7月13日(月)午後7時30分
場所：県総合医療会館
 - ① 禁煙指導マニュアルの作成について
〔第3回〕
日時：平成21年8月25日(火)午後7時30分
場所：県総合医療会館
 - ① 禁煙指導マニュアルの作成について
- (14) 高血圧神奈川スタディ委員会 (2回)
〔第1回〕
日時：平成21年6月26日(金)午後7時30分
場所：県総合医療会館
- ① 高血圧神奈川スタディ2009 調査について
〔第2回〕
日時：平成21年7月24日(金)午後7時30分
場所：県総合医療会館
 - ① 高血圧神奈川スタディ2009 調査について

お知らせ

第34回臨床医学研修講座

副会長 三川 武彦

平成21年9月27日（日）聖マリアンナ医科大学病院別館8階大講堂にて開催されます。内容は聖マリアンナ医大腎臓・高血圧内科教授木村健二郎先生のご努力により「最近の臨床医学のトピックス」を選択していただきました。会場：聖マリアンナ医科大学病院別館8階 大講堂 13:00～16:55（12:00受付開始）となっております。13:15より中佳一会長の開会の挨拶に引き続き6大の演題が用意されております。16:55廣津伸夫川崎市内科医会副会長の閉会の挨拶を最後に会は閉会となります。尚研修会終了後別館8階ランチボックスにて情報交換会を用意致しておりますので是非参加して頂きたいと存じます。

内容に関しては下記のプログラムをご参照下さい。多数のご参加をお待ち申し上げます。

神奈川県内科医学会 第34回臨床医学研修講座

日 時：平成21年9月27日（日）
13:00～17:05（12:00受付開始）
会 場：〈受付・講演会〉
聖マリアンナ医科大学病院別館8階 大講堂
共 催 神奈川県内科医学会
第一三共株式会社

お知らせ

神奈川県内科医学会 第34回臨床医学研修講座

日時：平成21年9月27日（日）13:00～16:55 場所：聖マリアンナ医科大学病院別館8階 大講堂

最近の臨床医学のトピックス

12:00～ 受付開始
13:00～13:15 情報提供「オルメテック錠」 第一三共株式会社
総合司会 川崎市内科医会副会長 岡野 公一先生
開会の辞 川崎市内科医会会長 羽鳥 裕先生
13:15～13:25 神奈川県内科医学会 会長挨拶 中 佳一先生

【講演会 I】

13:30～14:00 座長 川崎市内科医会幹事 小林 明文先生
演者 聖マリアンナ医科大学 消化器内科准教授 安田 宏先生
「抗血栓療法時の消化器系合併症とその対策」
14:00～14:30 座長 川崎市内科医会幹事 宍戸 寛治先生

演者 演者 聖マリアンナ医科大学 腎臓病センター 佐々木秀郎先生
谷澤 雅彦先生

「腎移植について—レシピエント・ドナーの立場から—」

14:30~15:00 座長 川崎市内科医会幹事 宮川 弘一先生
演者 聖マリアンナ医科大学 医療安全管理室長 (小児外科教授) 北川 博昭先生

「大学病院における医療安全管理室の役割」

15:00~15:15 休憩

【講演会Ⅱ】

15:15~15:45 座長 川崎市内科医会副会長 宮島 真之先生
演者 聖マリアンナ医科大学 神経内科教授 長谷川泰弘先生

「脳卒中の連携医療と均霑 (てん) 化」

15:45~16:15 座長 神奈川県内科医学会副会長 三川 武彦先生
演者 聖マリアンナ医科大学 循環器内科講師 明石 嘉浩先生

「ストレス心筋症にまつわる最近の話題」

16:15~16:45 座長 川崎市内科医会会長 羽鳥 裕先生
演者 聖マリアンナ医科大学 代謝内分泌内科准教授 方波見卓行先生

「メタボリック症候群の真犯人はだれか? : 脂肪肝との関連を考える」

16:45~16:55 病院長挨拶 聖マリアンナ医科大学病院長 三宅 良彦先生

16:55~17:05 閉会の辞 神奈川県内科医学会副会長 廣津 伸夫先生

*研修講座終了後、情報交換会を用意しております。

場所：別館8F ランチ ボックス

共 催：神奈川県内科医学会・第一三共株式会社

第77回神奈川県内科医学会秋季学術総会

学術委員会Ⅰ 委員長 伊藤 正吾

神奈川県内科医学会秋季学術総会が、来る平成21年11月21日(土曜日)午後4時よりホテルコスモ横浜にて開催されます。会場のホテルコスモ横浜は横浜駅西口から浅間下交差点方面に向かって、徒歩で7~8分ほどの所です。駅からやや離れていますのでご来場にはご不便をおかけ致しますが、ご参加のほど宜しくお願い申し上げます。

秋季学術総会は、原則として高齢者医療に関する学術講演会を開催することになっており、今年呼吸器疾患をテーマといたしました。

講演の一つは高齢者における呼吸器疾患として、気管支喘息を中心としたお話を伺うべく準備中です。気管支喘息に吸入ステロイド製剤が用いられ、臨床上非常に有効とされていますが、吸入する薬剤の粒子が大きいと吸入時に肺の奥まで拡散されないため、その臨床的効果が不十分となります。特に高齢者では吸入自体が上手にできず、せっかくの吸入治療が効果を呈さないことがあります。そこで、使用方法の簡素化、また肺の奥に到達し易いように粒子の細かいパウダー

製剤が開発され臨床で使用できることになりました。その新薬の臨床効果は如何でしょうか？最新的话题を聞くことが出来ると思います。

もう一題は、インフルエンザに関する講演を伺う予定としています。今年は新型インフルエンザの日本上陸があり、これから冬の時期に向かい国内での流行が心配されるところです。そこで、日本臨床内科医会にてインフルエンザの全国的調査に参加され、インフルエンザにご造詣の深い川崎市内科医会の廣津 伸夫先生に臨床医の面からお話を伺う予定にしております。季節性インフルエンザと新型インフルエンザとの鑑別は、また新型インフルエンザを含めたワクチン接種はどうするのか、更にタミフル抵抗性インフルエンザウイルス感染の対処法など疑問は尽きない所です。興味あるお話を伺えると思います。

多くの先生方のご来場をお待ち申し上げます。なお、講演会終了後に意見交換会の開催を予定致しております。会員の先生方の懇親を図るためにも、ぜひご参加いただけますようお願い申し上げます。

リーフレット作成のお知らせ

情報・広報委員会委員長 岡 正直



「神奈川県内科医学会のご案内」リーフレット（A4版3つ折）が完成しました。われら神内医の会長挨拶、沿革、活動内容、入会方法などをコンパクトに凝縮した内容で、新しい会員獲得のための強力なツールとなっています。今後開催されるさまざまな会議・講演会の参加者への配布や、神内医以外の各種団体への入会勧誘資料など、地区医師会での配布をはじめとして、会員ひとりひとりの関わりあるあらゆる機会において、新入会員獲得の切り札として積極的に活用していただきたくお願い申し上げます。神内医事務局に必要部数をお知らせいただければ、速やかにお手元にお届けできるようになっております。なにとぞご活用のほどお願い申し上げます。

一言コメント 情報・広報委員会



2年間宜しくお願い致します。

(南 信明：横須賀市)



11月までにメタボ“完全脱出”をもくろみ、週に約5,000m泳いでおります。今後とも宜しくお願い致します。

(木村 耕三：鎌倉市)



このたび情報広報委員長を拝命いたしました。神内医の価値ある情報の全ては、この文章をお読みになっている先生お一人お一人の中にあります。なにとぞ、ご協力ご支援のほどお願い申し上げます。

(岡 正直：港南区)



今までの一読者から、より良き発信人になるよう努力したいと思います。叱咤激励の程よろしく。

(高橋 功：茅ヶ崎)



初めての情報・広報委員として活動ですが、神奈川県内科医学会のために努力する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(宮島 真之：川崎市)



私の専門性を生かし、熱帯病、感染症、海外医療などの情報をタイムリーに流したいと考えています。

(大利 昌久：足柄上)



今回、情報・広報委員になりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(三浦溥太郎：横須賀市)



今回より広報委員に仲間入りしました。少しでも、お手伝い出来たらと、がんばります。よろしくお願い致します。

(忍田 源一：相模原市)

編集後記

暑かった夏も終わり、いよいよ秋の清々しい季節となりました。社会情勢は8月末の衆議院選挙の結果民主党が政権をとり、政治・経済など色々の分野で大きな変動が予想されますが、医療関係はより良い方向へ向かうのでしょうか。一方地域医療では、今年4月にメキシコで始まった新型インフルエンザが世界的流行を示し、国内では一時的に小康状態になったかに見えるものの、9月の新学期ごろから各所で猛威をふるい、毎冬の季節性インフルエンザの流行時季と重なった場合には想像を超えた事態も懸念されています。

このように常に流動している社会の状況に合わせて、適切な情報発信ができるよう編集委員の一人として頑張って生きたいと思っています。皆様のお力添えを期待しております。

(宮島 真之)

情報・広報委員会委員名簿

会 長	中 佳一
担当副会長	南 信明
委 員 長	岡 正直
副 委 員 長	宮島 真之
三浦 溥太郎(横須賀市)	木村 耕三(鎌倉市)
高橋 功(茅ヶ崎)	大 利 昌久(足柄上)
忍田 源一(相模原市)	中川 潤一(相模原市)

印刷：中和印刷株式会社 電話 (03) 3552-0426